

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立中学校給食検討委員会(第5回)				
事務局 (担当課)		学校保健課 電話042-769-8283(直通)				
開催日時		平成26年3月4日(火) 午後2時~4時5分				
開催場所		相模原市役所第2別館 5階 教育委員会室				
出席者	委員	11人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	3人(学校保健課長、他2人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	5人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) アンケートに基づく検討について (2) その他 4 閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

### 1 開会

### 2 あいさつ

吉岡会長あいさつ

### 3 議題

#### (1) アンケート結果に基づく検討について

資料1から資料7に基づき、事務局より説明を行い、質疑を行った。

給食調理事業者のノロウイルスへの対策について、消毒薬はアルコールではないので、表記上の間違いなのか、アルコール消毒から切り替えたものなのか、確認した方がよい。

A T P検査は、どういう箇所を検査したものなのか、確認した方がよい。

検査を行うのは、不定期に実施した方がよい。

ノロウイルス以外にも配慮してほしい。

資料3をもとに、具体的に何をどのようにしていくのがいいのか、また現状をどう改善できるのか各委員の考えを伺う。

温かいものを食缶方式で、給食センターでやっているようにできたらよい。

民間に調理委託していると、調理している人の顔が見えないので、不安になることもある。

温かいものを提供することが第一優先である。

部活動も生徒にとっては、大切なものである。コンパクトに配膳できる方式がいいのではないか。

食缶方式は、今のカリキュラムでは難しい。大規模校にまで対応できるのか。

業者が素手で扱うところは、調理のどの工程なのか、確認しておいてほしい。

容器の見た目よりも中身が大切である。小学校で人気のメニューを取り入れてほしい。

温かいもの、汁物があることが一番である。

ご飯の量が多いと残したくない、ご飯の量が少ないともっと食べたいという生徒がいるので、何とか工夫できないか。

給食時間が短い。15分が一般的だと思う。

食缶方式ならセンター校との日課の比較を知りたい。それを見てデリバリー校も対応できるのか知りたい。生徒のことを考えた日課であってほしい。

支援級は生徒も少ない。食缶方式の場合、10人未満や10から20人など、少ない人数にも食缶を変えて対応できるのか。

食缶方式は、日によって食数変動してしまう。給食を提供する側からすると日々変動するのは難しい。

現実的には、個別容器のほうが一人分の量を確保する上ではいいのではないか。

個別容器であっても汁物を提供することは、給食センターでも同じことである。温かいおかずの提供については、温かくておいしいもの、冷たくておいしいものがそれぞれある。まずは、汁物の提供が第一段階ではないかと思う。

ご飯の量は、どういう考え方で設定するのかだと思う。男女や運動系の部活など、その人にとって必要としている量が違う。例えば、一番少ないラインに設定して、食べたい生徒はお替りをしてもらうなどが考えられる。今のごはんの量は、平均的なのではないか。

野菜などを洗う場合、手の感触の方が異物なども分かりやすいことがある。何もかも手袋というのは良くない。

ご飯の量や試食会の開催については、業者の協力を得て実現可能である。

食育の必要性については、学校の中に食育の検討委員会などがあり、授業の中で食育の検討ができるとよい。給食だよりもあまり読まれていない。食育デーを設けるなど、中学校全体で食育について取組めることができればよい。

保護者としては、子どもに温かいものを提供してほしい。

給食時間が短い、部活動などは短縮してほしい。授業時間も決まっているので、食缶だと準備に時間がかかってしまう。個別容器の方がよいと感じた。

ご飯の量は、女の子には多く、運動している男の子は足りない。

給食試食会も小学校で開催できるとよい。小学校でできることを市からも伝えてもらったほうがよい。

温かい汁物は、業者によって個別容器ではできると思うが、食缶方式は難しいと感じるところもある。

小学校のときに馴染んでいた献立が中学校給食でも少しあれば違ってくる。

残食することは心苦しく、大盛り、普通などご飯の量が分けられるとよい。

第一優先は、給食時間と考える。15分しかなく、残すと悪いという罪悪感もあり、25分から30分あった方がよい。何かを犠牲にしないと給食時間は、確保できない。

ご飯の量についても調整するのではなく、足りない生徒は、家庭から持ってくるということとはできないのか。足りない場合は、個別対応を取り入れてはどうか。

温かい汁物は、ぜひつけてほしい。

残すことはいけないことだが、どうしても残す場合、残してもいいよと言うことを先生が言ってあげるしかないのでは。

調理事業者には、衛生教育ビデオなど、衛生教育を実施し、食の安全を確保してほしい。

5年契約となっているものを2年契約などにできないか。

ふりかけは禁止されているのか。

塩分摂取量が増えてしまうことがあるが、持ってきてはいけないとは言っていない。平成22年度には、頼み忘れた生徒用に配膳室にふりかけを用意していたが、ほとんど利用がなかったため、その後はやっていない。

食育について、子どもに対して教育的な指導がどうできるのか。成人病の話をしてても分からない。献立をもとに食育の話ができるのか。

話をきちんと聞くのは小学生である。中学生の子どもに直接話す機会は少ない。

塩分は控えた方がよい。化学調味料を上手に使えばいいのでは。

汁物があるとやはり違う。心が温まる。

逗子市で汁物を提供すると聞いたが状況は、どうなのか。

今年の秋からデリバリー給食を始め、汁物についても検討中と聞いている。

業者からの要望もあるが、自分で箸を持ってくるようにできないのか。

津久井地域の学校で以前やっていたが、忘れたりすることもあり、今はやっていない。

以上、これまでの委員の意見を総括すると、

温かいものの提供について

食缶、個別容器方式、学校の規模、コスト面、少人数の場合、食缶が変えられるかなど、方法論について検討していただきたい。汁物で野菜の摂取量も増やすことができ、多様なメニュー展開ができる。

給食時間の確保について

給食を味わって食べるには、何分程度必要なのか、頂きますからご馳走様まで何分かかるのかなど、学校に確認してほしい。

ご飯の量について

適量は女子でも190gは必要である。食環境の整備は、食育である。子どもがどう選ぶのか考えることも食育となる。

小学校メニューの実施について

試食会の実施について

業者への教育について

契約の問題について

などがあり、来年度の開催までに、具体的にワーキンググループ（部会）で検討していただきたい。

中学校は、大規模校や小規模校もある。また、給食センター校とデリバリー校もあり、それぞれ日課が違っている。何が課題であり、何が実現できるものなのか。温かいものの提供、費用面、給食時間、ご飯の量、食育、試食会など、いただいた内容を次回までに検討していきたい。

味が薄いという意見があるが、塩分は濃くしてはいけないと医療機関の先生から言われたことがある。脳が錯覚を起こしているとのことで、学校給食の役割として、子どもにとってもより良い給食を提供していきたい。

( 2 ) その他

来年度については、5 回程度開始を予定している。

前回の検討委員会でも来年度も委員として継続をお願いしているが、各団体の会長等に今月中に依頼させていただく予定である。

4 閉会

以 上

## 相模原市立中学校給食検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	吉岡 有紀子	相模女子大学栄養科学部	会 長	出席
2	伊与 亨	北里大学医療衛生学部		出席
3	小嶋 理史	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
4	小関 和代	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
5	堺 千里	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
6	水野谷 珠世	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
7	高原 麻美	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
8	黒瀧 直行	新町中学校	副会長	出席
9	北村 正弘	青野原中学校		出席
10	小泉 勉	旭中学校		出席
11	山本 真	相武台中学校		出席
12	朴木 昇	弥栄中学校		出席
13	高橋 純子	城山学校給食センター		出席
14	高橋 陽子	公募		出席